

#45 感性を育む暮らし

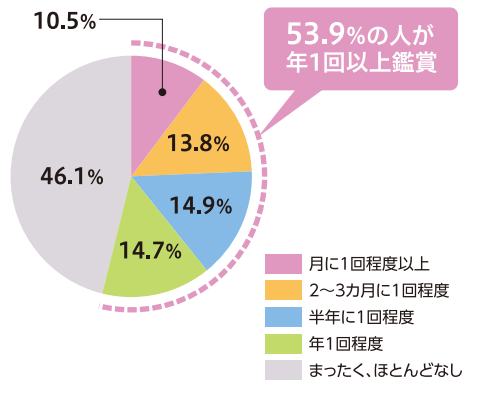
「好き」を起点に、
豊かな感性を育む。

「豊かな感性」と聞くと、特別なセンスや限られた人が持つ表現力などをイメージしがちです。でも「感性」そのものは誰もが持つ、物事を感じる力。ひとつの物事からどれほど多くのことを感じ取れるか。それが豊かさの違いになると言えるでしょう。感性を豊かに育むには、五感に刺激を与えてくれるものを身近に備え、感じ取る力を養うことが大切。新たなチャレンジも素敵ですが、家族や自分の「好き」をもっと住まいに取り込むことから始めても良いのではないのでしょうか。今回は、住生活研究所のこれまでの取り組みをもとに、感性を豊かに育むヒントをご紹介します。



■文化芸術の鑑賞頻度

*文化に関する世論調査報告書(文化庁/平成31年)



もっと気軽に身近に
アートを楽しもう。

有名アーティストの巡回展やアートフェア、お気に入りの作家の展覧会…。気になるイベントをチェックして、美術館などに出掛けられる方も多いのではないのでしょうか。文化庁のコロナ禍前の調査(平成31年)によると、文化芸術を年間1回以上鑑賞する人は53.9%に上り、その中でトップが美術系のジャンルと報告されています。

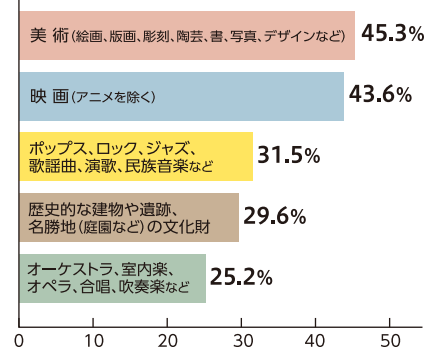
そんな美術への関心が高い日本人ですが、自宅にアートを飾るとなると、思いのほか消極的とも言われます。素直に「好き」と感じるアートをもっと身近な存在にすることも感性を育む第一歩になりそうです。

最近ではカフェやショップなどでもアートに出会う機会が増え、「素敵だな、良いな」と感じている人も多いのでは? その「感じる」ということを、わが家の日常に持ち込むことがポイントです。

たとえば、お気に入りのポスターや写真、旅先で買った小物やポストカードなどを気軽にディスプレイすることからスタート。イ

■鑑賞した文化芸術のジャンル
(上位5項目)

*文化に関する世論調査報告書(文化庁/平成31年)



ンテリアにも変化が生まれて心が刺激を受け、季節や気分に合わせて飾るもの・飾り方などを工夫していく。そんな暮らし方を重ねることが、感性を豊かに育んでいくことにつながります。

飾り方を工夫する。
それも感性を育む栄養に。

季節や気分に合わせてアートを入れ替えるのが理想ですが、複数のアートを所有するのはハードルも高く、作品によっては保管場所の確保なども大変になります。そこでおすすめなのが、飾り方を工夫すること。アートの見え方を変えることで、新鮮なシーンを生み出すことができ、感性の刺激にもつながります。様々な飾り方のアイデアをご紹介します。

【配置や置き方を変える】

壁に掛けていたアートフレームを、床置きにしたり、キャビネットの上に並べてみたり。同じアートでも飾る背景や見る視線を変えると、これまでと違った感覚で楽しむことができます。



組み合わせる小物をシックにまとめ、アートの色が引き立つように。



目線が低くなって見え方に変化が生まれる床置きスタイル。

【花や小物を組み合わせる】

アートに花を添えて、季節ごとに違った表情を楽しむのもおすすめです。同系色で馴染ませると、アートが引き立つように。



壁面に近いシャープなダウンライトで、アートのある壁面を象徴的に演出。ギャラリーのような雰囲気仕上げています。

【ウォールシェルフを活かす】

気軽に飾れて変化をつけやすいのがウォールシェルフです。小ぶりのアートやオブジェの合間に、旅先で入手した物やグリーンなどを加えれば、わが家ならではのギャラリーコーナーが創り出せます。

【照明を工夫する】

照明によってもアートの見え方は大きく違ってきます。コントラストの強いスポットライトなどを活かすとギャラリィ感が高まり、柔らかな光のスタンドなら暮らしに溶け込む感じに。昼と夜でアートの表情の違いを生み出すこともできます。

染ませたり、反対色でコントラストをつけるなど、花とアートのカラーバランスを工夫すれば、全体的な印象が変わります。お気に入りのインテリア小物をアートと組み合わせるのも一案です。

